

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県石垣島

増産プロジェクトにおける令和6年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の
達成状況等

1 令和6年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H29年産実績	722	151	561	1,434	8,125	6,219	6,060	7,116	58,659	9,384	33,997	102,041
H30年産実績	480	176	731	1,387	8,479	5,537	5,429	6,497	40,662	9,771	39,667	90,100
R元年産実績	495	135	667	1,296	6,578	4,659	4,241	5,176	32,536	6,279	28,286	67,102
R2年産実績	487	202	647	1,336	7,811	5,854	5,532	6,412	38,039	11,830	35,789	85,658
R3年産実績	479	198	829	1,506	7,993	6,098	5,932	6,608	38,250	12,089	49,191	99,530
R4年度実績	391	146	857	1,394	6,619	3,752	3,875	4,631	25,866	5,490	33,190	64,546
R5年増産実績	346	198	691	1,235	6,794	5,434	4,908	5,520	23,491	10,783	33,891	68,165
R6年増産計画	700	100	550	1,350	7,500	5,700	5,727	6,633	52,500	5,700	31,500	89,550
R6年増産実績	472	116	763	1,351	7,783	5,205	6,045	6,162	36,725	6,045	40,498	83,268
(対計画比%)	(67.4)	(116.2)	(138.8)	(100.1)	(103.8)	(91.3)	(105.6)	(92.9)	(70.0)	(106.1)	(128.6)	(93.0)
(対前年比%)	(136.5)	(58.5)	(110.5)	(109.4)	(114.6)	(95.8)	(123.2)	(111.6)	(156.3)	(56.1)	(119.5)	(122.2)
R7年産増産計画	700	100	550	1,350	7,500	5,800	5,800	6,700	52,500	5,800	31,900	90,200

2 その他指標の動向 令和5年産→令和6年産

- ・株出栽培の割合 55.9% → 56.5%
- ・平均糖度 13.9度 → 13.2度
- ・さとうきび作農家戸数 974戸 → 949戸

増産目標に対する位置づけ	<p>令和6年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="472 225 1137 336"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>1,350ha</td> <td>6,633kg/10a</td> <td>89,550t</td> </tr> <tr> <td>(計画)</td> <td>1,351ha</td> <td>6,162kg/10a</td> <td>83,268t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6年産の当初の増産目標は、収穫面積1,350ha、単収6.6t/10a、生産量89,550トンに対し、収穫面積は1,351haと計画より微増、単収は6.1トン/10a、生産量は83,268トン(対比計画92.9%)と若干低いものの、概ね計画どおりとなっている。製糖期間中は雨天続きの影響で、ハーベスターによる刈り取りが思うように稼働できず、収穫に遅れが生じたものの原料生産量は3期ぶりに8万トン台を超えた</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	1,350ha	6,633kg/10a	89,550t	(計画)	1,351ha	6,162kg/10a	83,268t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	1,350ha	6,633kg/10a	89,550t										
(計画)	1,351ha	6,162kg/10a	83,268t										
課題	<ul style="list-style-type: none"> 雨天時にはハーベスター収穫が行えなくなるため、計画的な収穫、搬入に支障を来し、製糖期間の長期化に繋がっている 土づくりに関し一部農家の意識は高いが、全体的にコストが高くなる緑肥や堆肥を施肥する農家が少ない 台風や干ばつ、獣害等の災害頻度が高く、農家掛金の負担増 												
令和6年産における取組方針	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業受託体制の再構築(受託料金と収益性の検討)に向け、オペレータの育成、確保、管理作業受委託モデルの構築を行う 緑肥や、フィルターケーキ・堆肥等の有機物投入による土づくりを行う さとうきび増産プロジェクト会議や関係機関と連携して、制度の活用事例を広く周知しながら、農業共済及び収入保険制度の普及、加入促進に努める 中核的な担い手及び農作業受託組織の育成強化が必要である 												

(1)経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																											
<p>①効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島の半分程度は農作業の受委託体制が整備された ・消費税が段階的に上がる中でも、受託料金は据え置き状態で長年課題となっていたことから、令和2年度に消費税10%込みの価格に改定した ・国及び県の補助事業を活用し、ビレットプランター、搬入機を各1台導入した(石垣市農業開発組合) ・さとうきび収穫機(ハーベスター)の燃料費に対し1リットルあたり25円の補助 <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="436 571 1395 767"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>123</td> <td>111</td> <td>87</td> <td>99</td> <td>96</td> <td>191</td> <td>177</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>48</td> <td>49</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産農家数は維持しているが、認定農業者数は再認定漏れがあり減少している ・植付、収穫等の受託者の実態把握が十分でない ・相対での作業受託を行っている地域があるが、組織的な取組となっておらず、代金決済システムや継続性に問題がある ・土づくりに関し一部農家の意識は高いが、全体的にコストが高くなる緑肥や堆肥を施肥する農家が少ない 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	認定農業者	123	111	87	99	96	191	177	162	農業法人	1	0	1	1	—	48	49	50	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者・新規就農者の育成を促進するとともに、認定農業者の再認定漏れを無くす ・農地中間管理事業を活用し、利用集積を推進する
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																					
認定農業者	123	111	87	99	96	191	177	162																					
農業法人	1	0	1	1	—	48	49	50																					

②農業共済制度への加入促進	【実施した取組】 ・関係機関と連携し、生産者要件審査やイベント等でのパンフレットによる周知活動による加入促進を図った ・緑肥や、フィルターケーキ・堆肥等の有機物投入による土づくりを行う ・一筆全損、春植え植替え補償の2つの特例補償制度の周知用チラシ作成、配布 ・個別訪問の実施 ・イノシシ対策で電気柵の貸出 ・要件審査申請時に青色申告の確認									
	【目標の達成状況】									
		H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)	
	加入戸数 (戸)	416	419	344	330	330	318	284	284	
	戸数引受率 (%)	37.2	39.6	33.0	30.4	30.4	31.4			
	引受面積 (ha)	580	514	454	476	475	451	365	413	
	面積引受率 (%)	41.8	39.6	34.0	31.6	35.6	32.4	26.2	33.4	
共済金額 (千円)	512,937	498,135	463,136	451,213	442,483	5,359	1,501	4,376		
注) R6年産の数値については概算値										
【課題】 ・台風や干ばつ、獣害等の災害頻度が高く、農家掛金の負担増 ・イノシシ被害による単収低下 ・8割補償への不満(全相殺方式) ・高齢化、規模縮小により保険に対する意識の低下 ・収入保険については青色申告者の把握									・さとうきび増産プロジェクト会議や関係機関と連携して、制度の活用事例を広く周知しながら、農業共済及び収入保険制度の普及、加入促進に努める ・関係機関と連携し要件審査申請時に加入促進 ・危険段階別共済掛金率の周知(個人ごとの被害状況で掛金率を適用) ・一筆全損、春植え植替え補償の2つの特例補償制度の周知 ・個別訪問の実施 ・イノシシ対策で電気柵の貸出 ・イノシシ対策で電気柵の貸出	

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																				
<p>①気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p>【実施した取組】</p> <p>①防風林の維持管理に努めた</p> <p>②農地防風林の雑草防除を含めた防風林の維持管理が必要</p> <p>③かんがい施設の未整備地区における干ばつ被害による単収の低下がみられる</p> <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="439 501 1397 863"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 実績</th> <th>H30 実績</th> <th>R元 実績</th> <th>R2 実績</th> <th>R3 実績</th> <th>R4 実績</th> <th>R5 見込</th> <th>R6 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場整備率</td> <td>72.9</td> <td>73.0</td> <td>73.2</td> <td>73.6</td> <td>74.2</td> <td>75.1</td> <td>75.5</td> <td>72.2</td> </tr> <tr> <td>水源整備率</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>86.0</td> <td>87.5</td> <td>87.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>畑地かんがい整備率</td> <td>73.5</td> <td>73.9</td> <td>74.2</td> <td>74.4</td> <td>74.7</td> <td>76.5</td> <td>76.8</td> <td>64.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p>		H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	R6 見込	ほ場整備率	72.9	73.0	73.2	73.6	74.2	75.1	75.5	72.2	水源整備率	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	87.5	87.5	87.5	畑地かんがい整備率	73.5	73.9	74.2	74.4	74.7	76.5	76.8	64.9	<p>・農地防風林の整備及び管理対策の更なる推進</p> <p>・既存のかんがい施設有効利用の推進</p> <p>・土づくりに関し一部農家の意識は高いが、全体的にコストが高くなる緑肥や堆肥を施肥する農家が少ない</p>
	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 見込	R6 見込																														
ほ場整備率	72.9	73.0	73.2	73.6	74.2	75.1	75.5	72.2																														
水源整備率	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0	87.5	87.5	87.5																														
畑地かんがい整備率	73.5	73.9	74.2	74.4	74.7	76.5	76.8	64.9																														

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の開催等によりオペレータの育成を図った ・国及び県の補助事業を活用し、ビレットプランター、搬入機を各1台導入した(石垣市農業開発組合) ・物価高騰重点支援地方創生臨時交付金を活用し、さとうきび収穫機(ハーベスター)の燃料費に対し1リットルあたり25円の補助を実施した <p>【目標の達成状況】 (単位:台、ha、%)</p> <table border="1" data-bbox="436 399 1400 678"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>32</td> <td>31</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>1,177</td> <td>1,163</td> <td>1,124</td> <td>1,162</td> <td>1,354</td> <td>1,238</td> <td>1,123</td> <td>1,224</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>82.1</td> <td>83.8</td> <td>87.0</td> <td>86.9</td> <td>89.9</td> <td>88.8</td> <td>90.9</td> <td>90.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑肥や、フィルターケーキ・堆肥等の有機物投入による土づくりを行う ・地域によっては機械整備率が低く、管理作業に遅れが生じている ・雨天時にはハーベスター収穫が行えなくなるため、計画的な収穫、搬入に支障を来し、製糖期間の長期化に繋がっている 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	ハーベスタ 稼働台数	29	29	30	32	33	32	31	32	ハーベスタ 収穫面積	1,177	1,163	1,124	1,162	1,354	1,238	1,123	1,224	ハーベスタ 収穫率(面積)	82.1	83.8	87.0	86.9	89.9	88.8	90.9	90.6	<ul style="list-style-type: none"> ・作業受託体制の再構築(受託料金と収益性の検討)に向け、オペレータの育成、確保、管理作業受委託モデルの構築を行う ・機械整備率の地域間格差を是正し、適期株出管理作業の推進を図る ・令和6年度に策定した「石垣島・地区機械導入方針」に基づき沖縄県さとうきび安定生産確立対策事業等を活用し、機械導入を図る
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																														
ハーベスタ 稼働台数	29	29	30	32	33	32	31	32																														
ハーベスタ 収穫面積	1,177	1,163	1,124	1,162	1,354	1,238	1,123	1,224																														
ハーベスタ 収穫率(面積)	82.1	83.8	87.0	86.9	89.9	88.8	90.9	90.6																														
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市補助(赤土等流出防止営農対策促進事業)及び製糖工場単独助成により緑肥栽培を推進した ・土壌分析の活用により、品種特性に応じた施肥設計について啓発を行った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりに関し一部農家の意識は高いが、全体的にコストが高くなる緑肥や堆肥を施肥する農家が少ない ・土流出による地力低下や赤土流出が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家に対し、土づくりや赤土流出防止対策の啓発を強化する ・緑肥や、余剰バガス・堆肥等の有機物投入による土づくりを行う他、新たな堆肥散布機の試作・効果の検討を行う ・株出栽培や園芸作物との輪作体系の推進、赤土流出防止対策協議会と連携しグリーンベルトの設置等を行うことにより赤土流出防止対策を推進する 																																				

(3)技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
<p>①病害虫対策</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会によるセーフティネット事業を活用した農薬購入助成を実施 ・適期植付・株出管理展示ほの設置に加え、集落毎の栽培講習会や生産者向け鳥獣対策講習を開催した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託体制が整備できていない地域で、適期植付や肥培管理ができていない傾向にある ・株出面積が拡大傾向にあるため、単収増に向けた適期株出管理を推進する必要がある ・適期管理が不十分である(雑草対策・肥料不足) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証展示ほの設置による適期植付、適期肥培管理の重要性を周知する ・肥料購入費助成を継続し、適期肥培管理の徹底を推進する ・適期植付、適期肥培管理による増収効果の啓発を行う 																																																						
<p>②優良品種の選択・普及</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立研究開発法人農業・食品生産技術総合研究機構からさとうきび原原種を受け入れ、原苗ほを設置、配布した <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="436 898 1395 1169"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> <th>R5 (実績)</th> <th>R6 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林8号</td> <td>3.0</td> <td>3.4</td> <td>3.9</td> <td>2.2</td> <td>1.3</td> <td>1.4</td> <td>1.1</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td>農林15号</td> <td>1.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林22号</td> <td>18.8</td> <td>20.7</td> <td>22.8</td> <td>23.8</td> <td>23.7</td> <td>22.5</td> <td>18.9</td> <td>19.1</td> </tr> <tr> <td>農林25号</td> <td>46.0</td> <td>39.0</td> <td>27.5</td> <td>19.7</td> <td>19.5</td> <td>20.5</td> <td>19.9</td> <td>26.9</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>13.0</td> <td>26.5</td> <td>34.9</td> <td>43.6</td> <td>45.2</td> <td>45.3</td> <td>42.0</td> <td>46.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌特性にあった品種を選択し、製糖期間を通じて高品質な品種について経営規模に対応できるような品種の平準化が必要である ・優良種苗増殖は、県と市で委託契約を締結して行っている。しかし、種苗輸送費については、市単独で負担となっているので、離島の基幹作物を守るうえで、輸送費まで含めた種苗増殖事業の見直しが必要である 		H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)	農林8号	3.0	3.4	3.9	2.2	1.3	1.4	1.1	0.9	農林15号	1.5	-	-	-	-	-	0.1	-	農林22号	18.8	20.7	22.8	23.8	23.7	22.5	18.9	19.1	農林25号	46.0	39.0	27.5	19.7	19.5	20.5	19.9	26.9	農林27号	13.0	26.5	34.9	43.6	45.2	45.3	42.0	46.0	<ul style="list-style-type: none"> ・緑肥や、フィルターケーキ・堆肥等の有機物投入による土づくりを行う ・品種の平準化による経営のメリットについて周知し、2品種以上の栽培によるリスク分散の普及啓発を図る ・種苗管理センターより原原種を受け入れ、原種ほ(開発組合に委託)から生産された苗を農家に無償で配布する
	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)																																																
農林8号	3.0	3.4	3.9	2.2	1.3	1.4	1.1	0.9																																																
農林15号	1.5	-	-	-	-	-	0.1	-																																																
農林22号	18.8	20.7	22.8	23.8	23.7	22.5	18.9	19.1																																																
農林25号	46.0	39.0	27.5	19.7	19.5	20.5	19.9	26.9																																																
農林27号	13.0	26.5	34.9	43.6	45.2	45.3	42.0	46.0																																																

<p>③栽培技術の普及等</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病虫害防除協議会で野ソー斉駆除の周知を徹底し、野ソ駆除剤(ヤソジオン・クマリン)の一部補助(石垣島製糖株30%、市15%)を実施した ・有害鳥獣対策事業を活用し、ワイヤーメッシュを設置した(総延長:11,400m 地区名:吉原地区、名蔵地区、大嵩地区、野底地区(計30ヶ所)) ・物価高騰重点支援地方創生臨時交付金を活用し、農業用資材及び堆肥の助成を実施した <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤価格が上昇し、経費負担の増加から防除の不徹底が懸念される ・共同防除、一斉防除等の組織的防除体制を確立する必要がある ・有害鳥獣対策を実施しているが、イノシシ等の有害鳥獣被害が被害が拡大している 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の高い薬剤等の使用回数減、フェロモンや植付時期のスライド化等、耕種的防除を含めた総合防除を推進する ・土づくりに関し一部農家の意識は高いが、全体的にコストが高くなる緑肥や堆肥を施肥する農家が少ない ・有害鳥獣対策事業を活用し、イノシシの侵入防止柵の導入などの被害防止対策に務める
------------------	---	--